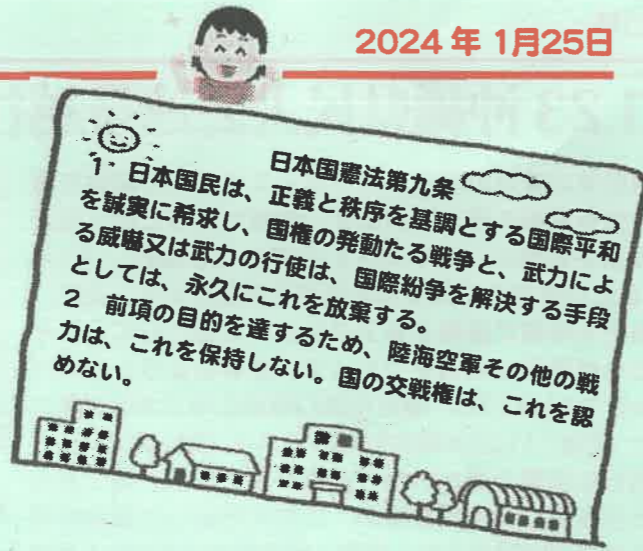


安保違憲訴訟 仙台高裁判決について

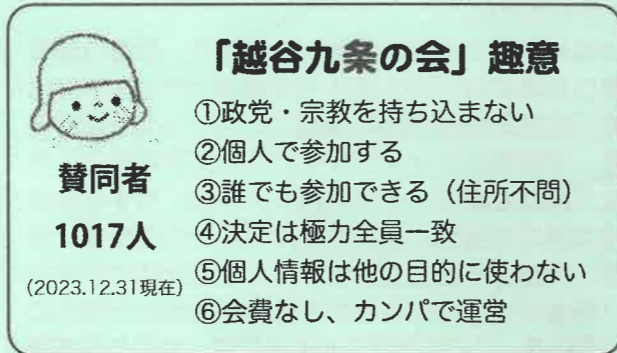
12月5日に安保違憲訴訟の仙台高裁判決があった。長谷部教授の尋問を積極的に実施した裁判であり、その成り行きが注目された。しかし控訴棄却であった。憲法判断に初めて踏み込んだとして、とくに注目されている。

判決は、安保法制により一般的抽象的な危険性の高まりは認めながら、具体的な危険性はないとし、原告らの請求を棄却した。安保法制が戦争等の危険性を高めたことは否定できないとしながら、具体的な危険の立証を否定した。裁判所の基準では、戦争は止められない。司法の役割を果たしていない。

原告団は、議論の末上告を回避した。今後裁判所とどう対峙していくか、原告団、市民の悩みは深い。戦争等の危険を回避するために、司法の役割は大きい。私たちは、違憲訴訟を通じて、市民の知恵と行動を裁判所に届けているのであり、いつかは裁判所が具体的な危機を自覚するであろう時まで、粘り強く声をあげていくほかない。(石河秀夫)



日本国憲法第九条
 1. 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
 2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



「越谷九条の会」趣意

- ①政党・宗教を持ち込まない
- ②個人で参加する
- ③誰でも参加できる(住所不問)
- ④決定は極力全員一致
- ⑤個人情報他目的に使わない
- ⑥会費なし、カンパで運営

賛同者 **1017人**
 (2023.12.31現在)

12.11オール埼玉総行動総決起集会 市民と野党の共闘で選挙勝を

私たちは、日本が再び「戦争をする国」になることへの大きな危機感をもって、憲法改悪反対、立憲主義を取り戻す、大軍拡許すなどの多くの市民・県民の声を集めてオール埼玉総行動総決起集会を埼玉会館で開催しました。参加者は700名以上になりました。

小出重義実行委員長は、戦争への道から引き返すためには市民と野党の共闘で選挙に勝つことが必要だと強調。「許すな！憲法改悪・市民連絡会」の菱山南帆子事務局長が講演し、「自公政権にはジェンダー平等や命と暮らしが守られる社会は実現できない。暗闇の中を歩いている若者たちを照らせるよう、明るく楽しく戦おう」と呼びかけました。

イスラエル出身で埼玉県皆野町在住のダニー・ネフセタイさんは、「私たちの力で、戦争のない希望あふれる世の中をつくらう」と訴えました。(越労連 河田隆司)



冬期/春期カンパのお願い

越谷九条の会は皆さんのカンパによって成り立ち、運営されています。あなたの「フトコロ具合」でOK！ 下記の郵便振替でお願いします。

● 郵便振替 00140-3-426889 越谷九条の会

越谷九条の会ニュース

事務所 〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷1-11-35 吾山ビルⅡ3F石河綜合法律事務所内
TEL.048-964-7511 FAX.048-964-5180 郵便振替 00140-3-426889 越谷九条の会



11.23沖縄連帯越谷アクション (p.3に報告記事)

ぬち たから
命どう宝
(命こそ宝)

を共有して
沖縄との連帯を。

沖縄と私

安藤博

○ 否定された沖縄の「公益」

1月10日、日本の政府は沖縄県名護市の辺野古沿岸大浦湾側の軟弱地盤埋め立て工事に着手した。世界一危険とされる沖縄県宜野湾市の米海兵隊普天間基地の移転先として辺野古の米軍キャンプ・シュワブ基地地先海上に2本の滑走路を付設するための埋立工事である。既にほとんど埋め立ての終わった南側と異なり、北側大浦湾の海底はマヨネーズともいわれる軟弱地盤なので海底部に7万本以上の砂の杭を打ちこむという地盤改良工事が予定されている。基地の増設に反対する多くの沖縄県民の意を体して沖縄県知事はこの改良工事のための設計変更を承認しなかったが、2023年12月20日に福岡高裁那覇支部が行った判決で沖縄の「民意」は退けられ2024年年明けの工事強行となった。工期は9年3か月とされ、普天間基地の移転は工事が順調に進んでも12年余先の2030年代半ばになる。裁判で争われたのは、新基地建設反対の沖縄県民の「民意」と「辺野古基地建設は移転先として唯一の選択肢である」とする国の主張である。福岡高裁判決は、玉城デニー沖縄県知事が主張した県民の民意を公益とは認めず、むしろ国家安全保障上の公益に反するものとした。

○ 沖縄/本土間の落差

高裁判決の受け止め方に、沖縄現地と東京など本土との間にはかなり大きな差があることが、マスコミの

報じ方に表れている。『琉球新報』『沖縄タイムス』両紙の12月21日朝刊は、ともに第一面のほぼ全面を使ったトップ記事。沖縄県が日本政府に敗訴した結果、辺野古基地建設を阻止する「最後の手段を失った」(『琉球新報』)衝撃を伝えている。

しかし本土紙の中で発行部数最多の『読売』は「国の『勝訴』とし、また『産経』は社説で「知事は敗訴を受け入れよ」と記している。

○ 差別

思えば、全ては「憲法番外地」ともいわれる沖縄に対する差別に発することである。国の機関が私人になりすまして行った奇怪としかいえない行政不服審査、司法エリート裁判官らが団子虫のようにまるく縮まって繰り返す自民党政権追従の判決、そして「沖縄の知事はそこをどいている」として国土交通相が行った代執行—こんなことは東京、大阪、広島では起こらない。「沖縄だから軍事基地を増やしても構わない」という本土日本政府のやることである。

差別を作り出しているのが自分たち本土側に住む者であることを後ろめたくも思う。そんな思いから、年に4、5回沖縄に行き、辺野古基地建設用の埋め立て土砂を運ぶダンプトラック妨害の牛歩行動などを地元沖縄のひとたちと行っている。応援のつもりだが、実は「勝つためにはあきらめないこと」と不屈を貫く沖縄

のひとたちに逆に励まされて帰ってくる。

○自分の足元で

「あなたたち本土のひとは沖縄にやってくるより、永田町を変えていくことで頑張ってくれよ」と、少し親しくなった沖縄の活動家に言われたことがある。そういえばそうだろう、何より自分の足元だ。自分が住むところで、自民党をのさばらせておかないようにすることで

ある。遠からず解散総選挙となるだろう。2024年度予算が成立し、政治資金スキャンダルのほとぼりが冷めてくる

のをみすまして、岸田首相はこの春ころにはと考えているのではなからうか。とすれば、野党候補の乱立により自民党の落下傘候補に無残に敗れた2023年春の衆議院千葉5区補欠選挙の二の舞いを演ずることのないよう、市民と野党の連帯による統一候補擁立に向け年明けから地元の仲間たちと活動を進めようと思う。

(2023/7/9発行の『越谷九条の会ニュース』掲載の安藤稿「生きる」参照)。

寒かった平和ウォーキング 13人が元気に参加!!

11月11日(土)寒風の中、大袋駅西口に予定の9時30分集合したのが12名。相談の結果「実行する」ことになり、東口を45分出発、旧4号国道の歩道を通って北越谷駅に向かいました。途中、歩道が狭く一列になったり、足場も悪くて何回もこけたりする人も出ました。

北越谷駅前でトイレ休憩を取った後、再び、越谷駅東口広場まで行進しました。途中、「平和憲法を守ろう!!」「原発汚染水を海に流すな!!」等とシュプレヒコールしましたが、各家々は戸締りされ、大型自動車

の音にその声も消される有様でした。でも、何人かの行き交う人から「寒いのにご苦労さん。がんばりましょう。」と声援も掛けられ、元気をもらいました。

例年は、越谷駅東口広場で解散したのち、中央市民会館裏の芝生公園で、昼食をとりながら、日頃の活動を語る交流会をやっていました。

しかし、今年は駅前の餃子屋に駆け込み、熱いものを食べながらの交流会となりました。来年は、「暖かい日だと良いね」とか「歩きやすいコースにしてね」との声も出されました。(飛山幸夫)

講演『憲兵だった父の遺言と私——謝罪を伝える』のこと

昨年末、私は浦和で講演を行いました。今から37年前、病床の父から「墓に刻んでくれ」と渡された紙切れには、中国での10年間の赴任地と、最後に「侵略戦争に参加。中国人民に対し為したる行為は申し訳なく只管(ひたすら)お詫び申し上げます」と、書いてありました。けれども身内の反対で、碑に刻めたのは12年後でした。

そして2000年と2005年に最後の赴任地東寧へ出かけて、石門子村の人々に父の謝罪を伝えることができま

した。(そこで出会った朝鮮人元「慰安婦」の李鳳雲さんの号泣は生涯忘れられません)。

私は数年前に軽い脳出血を患ったうえに、記憶力の衰えを感じて少し焦っています。この国では日本軍の加害についての追及はおざなりですが、もっともっと知ってもらい、アジアの被害国の人々との真の交流につなげてほしいと心から願っています。

少人数でもかまいませんので、声をかけてください。喜んでお話しいたします。

(倉橋綾子/Tel.048・986・5846)

「憲法9条は国を守り、国を超えて人類を守る！」

11/26越谷革新懇、9条の会世話人・伊藤千尋さんの講演から

憲法9条改憲派の人々が、「憲法9条で国を守れるか?」と語ることに對し、伊藤さんは次のように答えます。「国を守る」で国は守れない。「国を守る」ということは、「国境の向こう側は敵」ということを意味し、隣人を「敵」とみなして、殺し合いを正当化し、究極的には、双方の人が死に至り、国が破壊されることになる。さらに、「国を守る」ことは、「国民」の人間性を奪って国家の「部品」にする発想で、「守る」のは政権であり、国体である、と指摘しました。まさに、戦前の日本の姿がここに現われています。

憲法前文には、「われらは全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有



することを確認する」と規定されるように、偏狭な一國平和主義を説いたものではなく、国籍を越えて人類を守る、世界に普遍性を持つものだと強調されました。

(米川寛)

11.23 沖縄県民大会連帯越谷アクション 争うよりも愛したい

「政府は琉球弧の島々に自衛隊・ミサイルの配備を強行し戦争準備を進めています。沖縄の人びとは「私たちの島を戦場にしないで!」と声を上げ続け、11月23日には那覇で県民平和大会を開催します。同日、越谷でも沖縄に連帯するアクションを起こして、わたしたちが平和な社会をつくっていきましょう」との呼びかけで11月23日、越谷駅東口駅前広場で集会が開かれた(主催:11.23沖縄連帯越谷アクション実行委員会)。

同日に那覇で開かれた「県民平和大会」は1万人を上回る多くの市民を集め、これに呼応した集会が全国各地で同時開催され、東京・国会前では2000人が結集して声を上げた。

この越谷集会もこれに呼応したもので、会場の越谷駅前東口広場には120人の人々が集まった。13時30分、実行委員会代表の挨拶に始まり、オール埼玉総行動実行委、革新懇、ウイアクトなどの市民団体からの発言、政党挨拶と続き、それぞれに、沖縄に対する政府の不当な対応を批判、戦争準備の現状への危機感、沖縄連帯の大切さを語った。一つひとつ紹介はできないが、「日本がいつでも戦争ができる、そういう時代に突入している」「この状況を止めるには、やはり日本国憲法の存在が力になる」「立憲野党と市民が手を組んで、1対1の構造を作る」「『命どう宝』を共有して沖縄と連帯しよう」……などの発言、アピールがあった。

その間に各地の集会でもお馴染みの「ひとりチンドン」芸人、佐藤周平さんのパワフルなパフォーマンス、そして、宮古島出身の垣花暁子さんとお連れ合いの竹内



光浩さんによる八重山の島唄「トゥバラマ」をはじめ、何曲かの沖縄民謡が披露された。カチャーシーの曲「とーしんドーイ」になると、広場にカチャーシーの輪ができた。

この演奏の最後に竹内さんが語った「与那国島では、この前自衛隊の戦車がキャタピラを外してタイヤをつけて島に上陸しました。その時に反対運動に出た人はわずか10名です。でも10名ってわずか1000人の島民の中では大変な数なんです。越谷市民は34万人ですけれどもパーセンテージから言ったら大変な数なんです」と語った言葉が印象的だった。

集会の最後に「私たちは沖縄と連帯し、日本政府に対して全ての戦争準備を止め、対話と外交による問題解決を図ること、即時停戦のためのあらゆる外交努力を尽すことを求めます」を骨子とする集会宣言案が読み上げられ、採択。この後、東越谷第二公園までのデモに移った。(服部崇)

Table with 2 columns: Date and Event Name. Title: 活動報告2023年10月~12月. Rows include dates from 10.5 to 12.11 and event details like '9条大集会' and '講演会'.

Table with 2 columns: Date and Event Name. Title: 活動予定2024年1月~3月. Rows include dates from 1.9 to 3.9 and event details like '232回運営委員会'.

Table with 2 columns: Category and Amount. Title: 会計報告. Sub-headers: (収入の部), (支出の部). Rows include '総越金', 'カンパ', 'ニュース・印刷・用紙・作業代', etc.

